

地域関連課題等研究支援費に係る研究成果報告（ホームページ用）

	(所 属)	(職 名)	(氏 名)
研究 代表者	京都府立医科大学大学 院医学研究科精神機能 病態学	講師	成 本 迅
研究組織 の体制	精神機能病態学	併任助教	柴田敬祐
	精神機能病態学	大学院生	松岡照之
	精神機能病態学	大学院生	岡村愛子
	京都府立大学公共政策 学部	教授	中村佐織
	福知山市民病院精神神 経科	臨床心理士	宮 裕昭
	丹後保健所	副室長	志多野 修
	丹後保健所	主査	荒堀由妃
研究の 名称	テレビ会議を通じた京都府北部高齢者介護従事者のサポートに 関する研究		
研究のキ ーワード	テレビ会議、京都府北部、老年精神医学、介護支援専門員		
研究の 概要	医療資源の乏しい京都府北部の高齢者介護従事者に対してテレ ビ会議を用いた講義やケースカンファレンスを通じてサポート を行い、その効果を検証する。		

研究の背景	京都府北部地域においては、高齢化の進展により認知症や老年期のうつ病など老年精神医学の対象となる疾患が増加している。しかしながら、そこで活動する医療福祉従事者は、京都市内に比べて研修や専門家へのコンサルトの機会が乏しい。このため、専門医や教育のリソースがある大学病院からの地域支援の一環としてテレビ会議システムを介した講義やケースカンファレンスによるサポートを試みた。
研究手法	テレビ会議システムを用いて京都府北部で活動する介護支援専門員を対象に、ケースカンファレンスと老年精神医学に関する講義を計6回行い、その前後で老年精神医学に関する態度や自信度、知識を評価するとともに、参加者のうつの程度や精神的健康度を評価する。また、各講義の後には講義の有用性に関するアンケート調査を行い、テレビ会議システムを用いた講義の評価を行う。
研究の進捗状況と成果	<p>事前に現地コーディネーターの荒堀主査の協力を得て、アンケートによるニーズ調査を行った。結果、老年精神医学関連の知識には自信が持てないとの返答も多く、研修の機会を求める声が多かった。平成21年9月に京丹後市、宮津市、与謝郡で活動する介護支援専門員に募集をかけたところ、15名の応募があった。</p> <p>平成21年11月18日に、研究代表者である成本講師が丹後保健所に赴き、前半グループ6名と後半グループ9名に分け、講義前のアンケート調査を行った。その後、前半グループに選ばれた6名に対して第一回の講義を行った。講義は前半に、その日のテーマに沿った内容の症例提示を参加者に求めてディスカッションし、後半に講義をする形をとった。講義の具体的なテーマは下記のとおりで、現段階で4回の講義を終えている。</p> <p>【講義内容】</p> <p>第1回（現地にて） 11月18日 精神症状・認知機能の評価法以降テレビ会議</p> <p>第2回 12月16日 せん妄</p> <p>第3回 1月15日 うつ</p> <p>第4回 2月19日 認知症の鑑別診断</p> <p>第5回 3月17日 不適応行動に対する行動的介入について</p> <p>第6回 4月16日 成年後見制度（予定）</p> <p>今後は、第6回を終え、5月に後半グループと前半グループ合同でのミーティングを行い、再度開始前に行ったものと同じアンケートを行って、講義を受けた前半グループと講義を受けていない後半グループで、老年精神医学に関する態度や自信度、知識、およ</p>

